

読書に励み読解力と思慮深さを身に着けよう  
—各教科の教科書で紹介されている本を1冊でも多くじっくりと読み込もう—

開倫塾  
塾長 林 明夫

Q：読書をする、どのような力が身に着くのですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1) 読書に励むとどのような力が身に着くのか。私は「読解力」と「思慮深さ」が読書によって身に着くと考えます。
- (2) 例えば、私は4月中旬から5月中旬にかけて、モンゴメリ著、村岡花子訳の「赤毛のアン」シリーズを新潮文庫版で8巻読みました。1巻は350ページから550ページですので、8巻読み終えるにはかなり時間がかかりました。1ページずつ何が書いてあるのか「理解」するように努めましたので、8巻読み終えたときには、「赤毛のアン」の内容を「理解」する力がかなり身に着いたような気がしました。
- (3) たしかに、1巻目よりは2巻目、2巻目よりは3巻目と、読むスピードがだんだん速くなり、書いてある内容もよくわかるようになりました。8巻目の「アンをめぐる人々」などは、1つ1つの話があまりにも素晴らしく、感動してしまいました。
- (4) 「赤毛のアン」シリーズは全部で10巻ですので、残り2巻はすぐに読まないで、楽しみに取っておこうと思っています。
- (5) 私は「赤毛のアン」の1巻目がすごく気に入りましたので、2巻目から8巻目までは1か月かけて一気に読んでしまいました。これも、1巻目で「赤毛のアン」を「読む力」を身に着けたおかげだと思います。
- (6) 皆様もお気に入りの「作家」や「シリーズ」を見つけて、1～2か月で作家ならすべての作品を、シリーズなら全巻をお読みになることをお勧めします。「読み解く力」つまり「読解力」がグングンと身に着いてきますよ。

Q：どんな本を読むとよいのですか。

A：(1) まずは、学校で現在習っているすべての教科の「教科書」で紹介されている作品の原作や、その作品を書いた作者の本をお勧めします。

(2) 芥川龍之介の「トロッコ」や「くもの糸」などの作品を読んで作者が気に入ったら、龍之介の作品を次から次へとどんどん読んでみる。

(3) 教科書に出ている「坊っちゃん」の一部を読んで気に入ったら、「坊っちゃん」を全部読ん

でみる。夏目漱石が気に入ったら、「吾輩は猫である」や「心」、「門」、「それから」などの作品も次から次へと読む。学校や公立図書館にある夏目漱石全集などにも挑戦する。

(4) 漱石の親友であった正岡子規の俳句のいくつかを教科書で学び気に入ったら、「子規句集」や「病状六尺」などを岩波文庫で読む。時間があったら、東京都台東区根岸にある正岡子規が最後に過ごした「子規庵(しきあん)」にも行ってみる。

(5) 国語の教科書だけでなく、数学、社会、理科、英語、音楽、保健体育、美術、技術・家庭などのすべての教科書には、その教科にとって欠くことのできない作家や著者の作品が数多く紹介されています。各学年の教科書で紹介されている作品や人物の作品を1冊でも多く書店や図書館で探し出し、時間をかけてゆっくりとお読みになることをお勧めします。

**Q：どのような心構えで、教科書に出ている本を読むとよいのですか。**

A：(1) 大切な本は一語一語を「理解」しながら、腰を据えてゆっくりと読むことです。大切な本は作者と「時空(じくう)、つまり時や場所を越えて対話」をするようにていねいに読みましょう。作者が訴えたいことを真正面から受け止めて十分に「理解」した上で、自分なりの考えをまとめ、また読み返す。このような「反芻(はんすう)」しながらする読書こそが、作者との時や場所を越えた対話といえます。

(2) 「仁(愛)」や「人徳」のある人とはどのような人かを知りたいときは、孔子の教えを弟子たちが499の短い文章にまとめた「論語」を現代語訳を参考にしてじっくりと読めば、多くのヒントを得ることができます。「論語」をゆっくりと読むことで、2500年前に生きた孔子と「時空を越えた対話」をすることができます。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：(1) 本を読むことで得られるもう1つの力は、「思慮深さ」です。大切な本をゆっくりと読めば読むほど、ものごとを深く考えることができるようになります。相手の立場を大切にしながら、自分自身を振り返る、省(かえり)みる力、つまり「省察(しょうさつ)」する力が身に着きます。

(2) 本を読んで気に入った語句や表現に出会ったら、「書き抜き読書ノート」に書き写して繰り返し読み直すことをお勧めします。

(3) 「人格の基礎」は読書によって形づくられます。「書き抜き読書ノート」を繰り返し読み直すことは、よい人生を送る上でとても役に立ちます。本を読んでいて自分で書き抜いたことばや文章を、生きる上でぜひ参考にしてください。

— 2015年6月3日記 —  
(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)  
(作新学院大学 客員教授)